

「ライフ・ライン」のつどい in 内房 ニュースレター

第7号 2008年11月発行

「ライフ・ライン」のつどい in 内房実行委員会

イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。そこで、彼らは網をおろした。……シモン・ペテロは舟に上がって、網を陸地に引き上げた。それは153匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったけれども、網は破れなかった。

(ヨハネ20章6, 11節)

「ライフ・ライン」のつどい in 内房は、主の導きと御霊によって祈り、協力してくださった皆様の力によって、大いなる主のみわざを見させていただきました。感謝いたします。

ニュースレターは今回で最後となります。実行委員の短い証しをさせていただき、主に栄光をお返ししたいと思います。

「ハレルヤ！主の御名をほめたたえます！」

「ライフ・ライン」のつどい in 内房を終えて、第一声はこれしかありません。つどいの最初の目標は100名の参加者が与えられることでした。正直な所、準備の段階でこの目標が実現するかどうか不安がありました。フタを開けてみたらおどろくばかりの主のわざを見ることになったのです。用意された席では足りなくて、集会の最中だというのに何度も椅子を運び込むことになったのです。音楽ゲストの吉村美穂さんには申し訳ないな、と思いつつ、喜びながら椅子を運び込みました。奉仕者を含めて154名の参加者が起こされました。イエス様のことばに従ったペテロが引き上げた魚の数を思い起こして、主イエス様の言葉は必ず実現することを教えられた集会でした。

「ライフ・ライン」放送も主のことばによって始められた働きですから、必ず主のご計画通りに実現する、と信じて従っていきたいと思いました。(Y. I)

内房では14年前から超教派で牧師・宣教師が「ノーネクタイ牧師会」と名付けて、夫婦同伴で集まり、祈りと賛美を中心に43回もの親睦会を行なってきました。また、メンバーの顔触れは変わっていますが、これまでに数回、一緒にイベントを行ったこともありました。同じ願いを持って一緒に一つのことを行う。いつも準備段階から、なぜか力がわいてきて自分の教会に喜びを持ち帰ることができますが、今回のラリーは、その最たるものだったと感じています。それは、常連のメンバーに留まらず、もっと多くの教会の協力があつたからでしょう。教派を超えて教会が力を合わせる場所に、神様の祝福が豊かにあり、より多くの実を結んでいけるのだと確信しています。(C. M)

いつも数人で礼拝を守っている私にとって、100人以上の人が集まって、一緒に神様への賛美やメッセージを聞いているということだけで、とてもうれしいひとときでした。この地域に神様を信じている人、求めている人がこんなにたくさんいるということを実感できました。準備の業を通して、他の先生たちとの交わりを深めることができ、教団教派を越えた協力が、これからの伝道には必要だとも感じました。

これからもライフ・ラインの放送を通して、主にある交わりを深めていきたいです。(S. T)